

農業決算全体は 前年比で増収 経費高止まりで 一部業種は減益

—2023年農業経営動向分析—

農業を営む日本公庫の融資先を対象に、3カ年(2021年~23年)の決算データを集計して、損益の動向や財務指標などを分析し、取りまとめました。

2023年の農業決算は全体として、価格の上昇などにより、売上が増加傾向で推移しました。農業所得は、売上高増加に伴い

増えた業種がある一方で、原材料費などの経費高止まりが要因となり、肉用牛などを中心に低調な推移となった業種もありました。

耕種部門の収益状況

個人は増収増益、法人は利益横ばい

2023年の耕種全体では、個人は売上高が前年比106.0%と増加し、利益も同108.6%と増加しました(表1)。また、法人は売上高が同105.5%と増加しましたが、利益は同101.1%と横ばいとなりました。主な業種の概況は次のとおりです。

〔稲作〕

個人(北海道)は、経営体当たりの規模は横ばいとなりましたが、22年度落ち込んでいた米価がやや回復したことで、売上高は同107.6%と増加、利益も同121.1%と増加しました。

個人(都府県)は、経営体当たり

の規模は横ばいとなりましたが、売上高は同108.1%と、個人(北海道)と同様に増加し、利益も同111.5%と増加しました。

法人は、経営体当たりの規模は拡大し、売上高は同108.2%、利益も同102.9%と増加しました。

〔北海道畑作〕

個人では経営体当たりの規模は横ばい、売上高は同101.0%と横ばい、利益は同89.5%と減少しました。

法人では経営体当たりの規模は横ばい、売上高は同103.2%と増加し、利益も同142.9%と増加しました。

〔果樹〕

個人では、経営体当たりの規模は横ばいで推移し、売上高は同107.4%と増加し、利益も同104.3%と増加しました。

法人は、経営体当たりの規模は拡大したものの、売上高は同100.8%と横ばいで推移し、利益は同28.0%と減少しました。

〔露地野菜〕

個人(北海道)は、経営体当たりの規模は横ばい、売上高は価格上昇などにより同103.7%と増加し、利益も同108.2%と増加しました。個人(都府県)は、経営体当たりの規模は拡大し、売上高は同107.

2%、利益も同103.9%と増加しました。

法人は、経営体当たりの規模は拡大、売上高は同106.7%、利益も同104.6%と増加しました。

〔施設野菜〕

個人では、経営体当たりの規模は拡大、売上高は価格上昇などにより同106.6%と増加し、利益も同114.0%と増加しました。

法人は、経営体当たりの規模は拡大、売上高は同104.1%と、個人と同様に増加し、利益も同132.4%と増加しました。

〔施設花き〕

個人では、経営体当たりの規模は横ばいで推移し、売上高は同100.8%と微増で推移し、利益は同100.0%と横ばいとなりました。

法人は、経営体当たりの規模は横ばい、売上高は同98.7%と横ばいとなり、利益は同17.6%と減少しました。

〔茶〕

個人は、経営体当たりの規模は横ばいとなり、売上高は同98.6%、利益についても同98.3%と横ばいとなりました。

法人は、経営体当たりの規模は拡大したものの、売上高は同100.4%と横ばい、利益は同21.9%と減少しました。

◆個人経営体は増収増益の業種が目立つ

表1 耕種部門の収益状況

(金額単位：百万円)

業種	サンプル数	経営規模			売上高			個人：農家所得 (専従者給与控除前) 法人：経常利益			(参考：法人のみ) 役員報酬＋経常利益				
		単位	2022年	2023年	22年	23年	前年対比	22年	23年	前年対比	22年	23年	前年対比		
耕種	個人 法人	全国	3,569			31.2	33.0	106.0% ↗	6.2	6.8	108.6% ↗				
			976			90.4	95.4	105.5% ↗	6.2	6.3	101.1% →				
稲作	個人 法人	北海道	80	水稲 作付面積	17.8ha	18.0ha	35.4	38.1	107.6% ↗	7.1	8.6	121.1% ↗			
		都府県	892		17.0ha	17.3ha	28.4	30.7	108.1% ↗	6.1	6.8	111.5% ↗			
		全国	647		40.1ha	41.4ha	62.5	67.6	108.2% ↗	6.8	7.0	102.9% ↗	14.1	14.2	100.7%
北海道畑作	個人 法人	北海道	66	経営耕地 面積	45.4ha	45.6ha	78.2	79.0	101.0% →	18.1	16.2	89.5% ↘			
			43		65.6ha	65.6ha	97.9	101.0	103.2% ↗	7.0	10.0	142.9% ↗	18.5	21.8	117.8%
果樹	個人 法人	全国	326	第1位品目 作付面積	1.8ha	1.8ha	17.6	18.9	107.4% ↗	4.7	4.9	104.3% ↗			
			29		4.6ha	4.7ha	101.9	102.7	100.8% →	5.0	1.4	28.0% ↘	10.2	7.1	69.6%
露地野菜	個人 法人	北海道	88	第1位品目 作付面積	8.9ha	9.0ha	78.1	81.0	103.7% ↗	24.3	26.3	108.2% ↗			
		都府県	521		3.2ha	3.3ha	29.1	31.2	107.2% ↗	5.1	5.3	103.9% ↗			
		全国	89		19.0ha	20.0ha	142.7	152.3	106.7% ↗	6.5	6.8	104.6% ↗	15.7	15.9	101.3%
施設野菜	個人 法人	全国	1,349	第1位品目 栽培面積	4.0千㎡	4.1千㎡	29.0	30.9	106.6% ↗	5.0	5.7	114.0% ↗			
			80		14.5千㎡	14.8千㎡	147.2	153.2	104.1% ↗	3.4	4.5	132.4% ↗	10.7	11.8	110.3%
施設花き	個人 法人	全国	167	第1位品目 栽培面積	6.1千㎡	6.2千㎡	49.8	50.2	100.8% →	9.1	9.1	100.0% →			
			18		10.4千㎡	10.6千㎡	155.8	153.8	98.7% →	7.4	1.3	17.6% ↘	20.2	15.7	77.7%
茶	個人 法人	全国	65	茶園面積	7.6ha	7.7ha	35.6	35.1	98.6% →	5.9	5.8	98.3% →			
			55		29.9ha	30.8ha	158.7	159.3	100.4% →	3.2	0.7	21.9% ↘	12.1	9.7	80.2%
キノコ	個人 法人	全国	15	第1位品目 収穫量	23.2t	22.9t	27.4	25.7	93.8% ↘	1.5	2.0	133.3% ↗			
			15		313.6t	312.8t	309.0	314.7	101.8% →	3.8	6.9	181.6% ↗	13.5	17.2	127.4%

◆畜産業種全体として売上高が増加しているが、肉用牛肥育では減益

表2 畜産部門の収益状況

(金額単位：百万円)

業種	サンプル数	経営規模			売上高			個人：農家所得 (専従者給与控除前) 法人：経常利益			(参考：法人のみ) 役員報酬＋経常利益					
		単位	2022年	2023年	22年	23年	前年対比	22年	23年	前年対比	22年	23年	前年対比			
畜産	個人 法人	全国	1,150			113.8	120.3	105.7% ↗	4.5	6.3	141.0% ↗					
			791			599.8	645.6	107.6% ↗	9.2	19.7	214.1% ↗					
酪農	個人 法人	全国	669	成牛頭数	67.4頭	68.1頭	95.0	101.1	106.5% ↗	3.3	6.4	196.8% ↗				
			北海道		87	86.2頭	86.9頭	108.9	116.1	106.6% ↗	5.6	8.4	150.0% ↗			
			都府県		582	64.6頭	65.3頭	92.9	98.9	106.5% ↗	2.9	6.1	210.3% ↗			
			全国		357	233.1頭	231.0頭	286.8	311.2	108.5% ↗	-4.2	7.6	黒字転換 ↗	8.6	20.1	232.8%
			北海道		219	267.8頭	264.9頭	307.3	334.7	108.9% ↗	-1.8	10.2	黒字転換 ↗	12.6	24.2	192.1%
肉用牛肥育	個人 法人	全国	366	飼養頭数	188.8頭	187.6頭	137.1	140.0	102.1% ↗	6.0	3.8	63.3% ↘				
			152		1234.8頭	1236.3頭	774.2	797.0	102.9% ↗	15.2	2.7	17.8% ↘	26.8	14.5	54.1%	
養豚	個人 法人	全国	60	繁殖雌豚 頭数	148.0頭	150.6頭	135.4	141.9	104.8% ↗	8.7	8.8	101.1% →				
			182		726.5頭	731.9頭	745.0	794.6	106.7% ↗	13.5	10.4	77.0% ↘	34.4	30.6	89.0%	
採卵鶏	個人 法人	全国	30	飼養羽数	47.5千羽	46.9千羽	165.6	228.2	137.8% ↗	1.6	28.4	1775.0% ↗				
			63		322.2千羽	314.8千羽	1,451.3	1,675.9	115.5% ↗	51.0	154.2	302.4% ↗	66.8	173.5	259.7%	
ブロイラー	個人 法人	全国	25	飼養羽数	64.7千羽	64.6千羽	162.6	164.4	101.1% →	7.5	7.1	94.7% ↘				
			37		218.9千羽	219.9千羽	740.0	762.7	103.1% ↗	21.2	21.8	102.8% ↗	34.0	34.2	100.6%	

注1) 経営規模、売上高、農家所得および経常利益は経営部門ごとの1経営体当たりの平均値を記載

注2) 増減率はラウンドの関係で数値が合わない場合がある

*個人は農家所得(青色申告の専従者給与控除前利益)、法人は経常利益の値を記載。法人の経常利益は役員報酬などを差し引いた後の数値であるため、個人の農業所得とは別の指標となっている。

役員報酬差引前経常利益の数値は右横の(参考)の値を参照。

全体の売上高は増加、肉用牛は減益

2023年の畜産全体では、売上高について、個人は前年比105.7%、法人は同107.6%と増加し、利益についても、個人は同141.0%、法人は同214.1%と増加しました【表2】。

しかし、コロナ禍前に実施した2019年の調査結果と比較すると、多くの業種で利益は下回る水準にとどまりました。主な業種の概況は次のとおりです。

〔酪農〕

個人は、経営体当たりの規模は横ばいで推移し、売上高は乳価の上昇などから同106.5%と増加、利益も同196.8%と増加しました。

法人は、経営体当たりの規模は横ばいで推移し、売上高は個人と同様に、乳価の上昇などから同108.5%と増加し、利益は黒字に転換しました。

〔肉用牛肥育〕

個人は、経営体当たりの規模は横ばいで推移し、売上高は同102.1%と増加しましたが、利益は同

63.3%と減少しました。

法人は、経営体当たりの規模は横ばいで推移し、売上高は同102.9%と増加した一方、利益は同17.8%と減少しました。

〔養豚〕

個人は、経営体当たりの規模は横ばいで推移し、売上高は同104.8%と増加しましたが、利益は同101.1%と横ばいとなりました。

法人は、経営体当たりの規模は横ばいで推移し、売上高は同106.7%と増加した一方、利益は同77.0%と減少しました。

〔採卵鶏〕

個人は、経営体当たりの規模は横ばいで推移しました。その一方、高病原性鳥インフルエンザの影響などにより卵価が上昇したことで、売上高は同137.8%と増加し、利益も同177.5.0%と増加しました。

法人は、経営体当たりの規模はやや縮小したものの、売上高は同115.5%、利益も同302.4%と増加しました。

〔ブロイラー〕

個人は、経営体当たりの規模は横ばいで推移し、売上高も同101.1%と横ばいとなりましたが、利

直近10年間の利益の推移

畜産などで厳しい現状

農業経営全体の利益について2022年と23年を比較すると、売上高は耕種・畜産ともに多くの業種において増加傾向で推移したものの、利益は業種ごとに明暗が分かれる結果となりました。

これらをさらに長期的な動きとして捉えるために、直近10年間（2014～23年）の利益（個人は農業所得、法人は役員報酬＋経常利益）の推移を比較しました。

まず耕種において、稲作は、個人および法人ともに向上きで推移しており、直近10年のなかでは21年または22年を底に回復の兆しを見せています【図1・2】。

露地野菜について、個人（北海道）の利益は直近10年間で最高となった一方で、個人（都府県）は低調に推移、法人は直近10年で最低だった22年からやや回復しています。次に畜産において、採卵鶏は鳥

益は同94.7%と減少しました。

法人は、経営体当たりの規模は横ばい、売上高は同103.1%、利益も同102.8%と増加しました。

インフルエンザなどの影響により卵価が上昇したことで直近10年のなかでも高水準で推移しました

【図3・4】それ以外の畜産業種については、14～18年ごろと比較すると低水準にあり、21年以降の原材料費高騰の影響下で厳しい状況であることがわかります。

（情報企画部 高田圭介）

〔集計・分析対象など〕

●集計・分析対象先
公庫融資先6486先（個人経営4719先、法人経営1767先）

●対象経営部門
（農業収入の第一位部門で区分）
耕種8部門：稲作、北海道畑作、果樹、露地野菜、施設野菜、施設花き、茶、キノコ

畜産5部門：酪農、肉用牛肥育、養豚一貫、採卵鶏、ブロイラー

●対象決算期 2021年・22年・23年
法人は各年12月～翌年3月が決算期のもの

〔注〕文中の「増益」や「減益」は、個人経営では農家所得、専従者給与控除前・税引前、法人経営では経常利益が増加したか減少したかで判断している。

図1 【個人／耕種】単位規模当たり農業所得の推移
(2014～2023年、14年の数値を100とする)

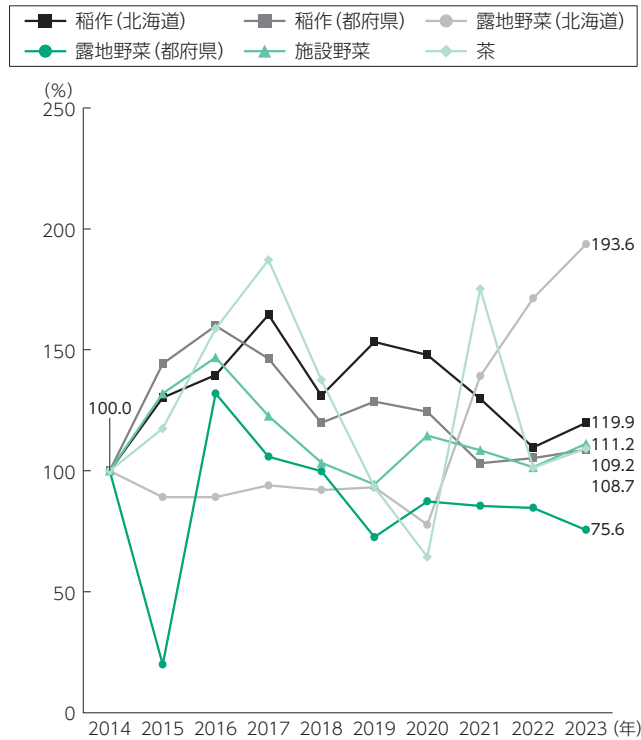


図2 【法人／耕種】単位規模当たり「役員報酬+経常利益」の推移
(2014～2023年、14年の数値を100とする)

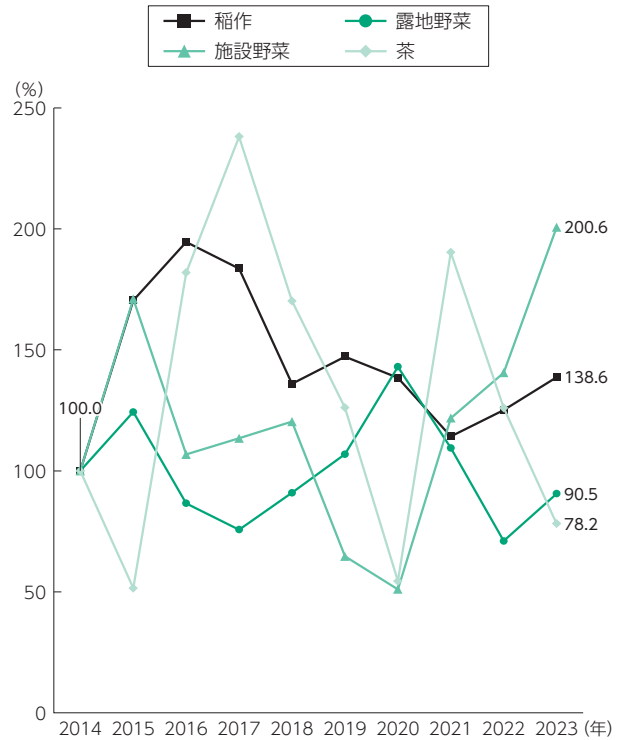


図3 【個人／畜産】単位規模当たり農業所得の推移
(2014～2023年、14年の数値を100とする)

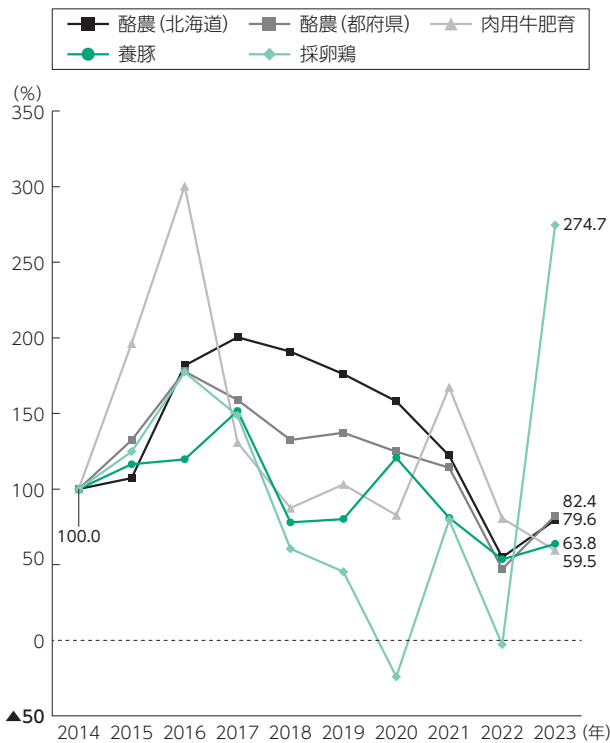
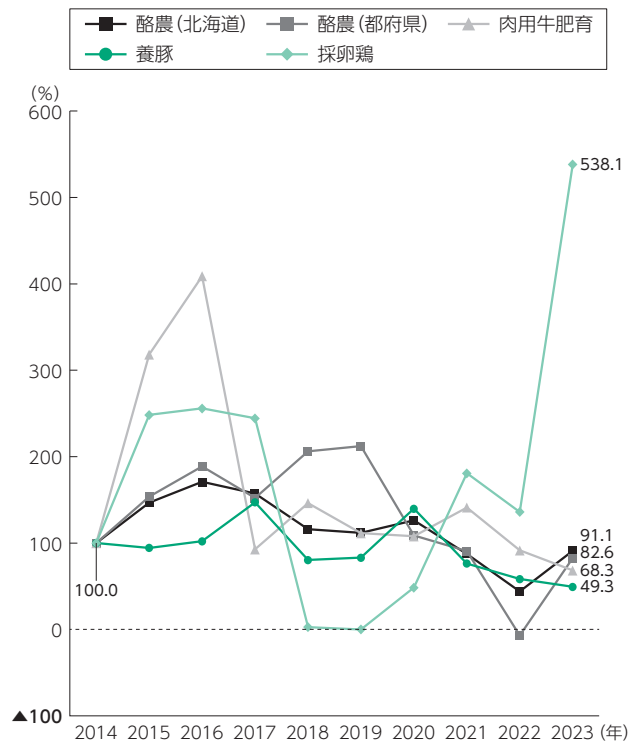


図4 【法人／畜産】単位規模当たり「役員報酬+経常利益」の推移
(2014～2023年、14年の数値を100とする)



※本グラフは各年の農業経営動向分析の結果を基に、経年比較を実施したものの、各年ごとにサンプルとなる経営体やサンプル数は異なっていることに注意。